

第 35 期第 14 回常任理事会議事録

日 時：2009 年 10 月 20 日（火）13 時 30 分～16 時 10 分

会 場：日本気象学会事務局（気象庁 8 階）

出席者：新野，藤谷，石田，近藤（裕），佐藤，田中，藤部，以上 7 名（常任理事現在数 13 名）

欠席者：岩崎，近藤（豊），里村，中島，中村，中本以上 6 名

その他の出席者：鈴木，田沢，萩原（事務局）

議 事

1. 第 35 期第 13 回常任理事会議事録の確認

2. 第 35 期第 8 回理事会議事録の確認

3. 会員の加入・退会

新入会員 9，退会 12 を全会一致で承認した。2009 年 10 月 15 日現在，会員数 3,947 名で通常会員は 1,099 名。

4. 論文賞について

気象集誌および SOLA の論文賞について，前回の常任理事会に引き続き検討した。11 月の理事会でも検討していく。

5. 2010 年度の事務局体制について

2010 年度の事務局体制について理事長より提案があり，協議の上全会一致で承認した。今後，理事会に諮る。

6. 第 9 回理事会の議題について

標記について検討した。

7. 各委員会からの報告

庶務…転載許可

1) カメリアライン株式会社中山眞治氏から，広瀬直毅，西村和也，山本勝：日本周辺の冬季気候に対する対馬暖流の影響，2008 年度春季大会講演予稿集 93，p301、広瀬直毅，福留研一，鶴野伊津志：海流観測から降雪量を予測する，2006 年度春季大会講演予稿集 89，p143 を日本郵船株式会社のホームページに転載。

2) 株式会社大成出版社から，玄地裕，岡野泰久，井原智彦：ヒートアイランド現象によりもたらされる環境影響の定量化，2008 年度春季大会講演予稿集 93，p306，Fig. 1 を健康維持増進住宅のすすめ，（財）建築環境・省エネルギー機構編，株式会社大成出版社（2009 年 10 月 20 日発行予定）に転載。

3) French National School of Meteorology の Florent Beucher 氏から，Asai, T., 1972: Thermal instability of a shear flow turning the direction with height. J. Meteor. Soc. Japan, 50, 525-532, Matsuno, T., 1966: Quasi-geostrophic motions in the equatorial area. J. Meteor. Soc. Japan, 44, 25-43, Houze, R. A., Jr., 1982:

Cloud clusters and large-scale vertical motions in the tropics. J. Meteor. Soc. Japan, 60, 396-410 を Tropical Textbook, Meteo-France に転載.

- 4) 財団法人東京大学出版会から, 福西浩: 雷雲から超高層大気への上方放電発光現象, 天気, 53, 7-18 の第2図(a), 第6図, 菊地勝弘, 遠藤辰雄, 1982: 1977年有珠山噴火に伴う降灰粒子の大気電氣的性質. J. Meteor. Soc. Japan, 60, 548-561 の Fig. 9, Fig. 16, 高橋劭, 1983: 熱帯における海洋性積雲の電荷構造と電荷発生機構. J. Meteor. Soc. Japan, 61, 656-669 の Fig. 1a, Fig. 4ab, 高橋劭, 1987: 雷雲モデルでの放電源の決定. J. Meteor. Soc. Japan, 65, 777-794 の Fig. 3, Fig. 4, Fig. 13, Fig. 14, 道本光一郎, 1991: 北陸地方における雷雲の発雷に関連するレーダーエコーの研究. J. Meteor. Soc. Japan, 69, 327-336 の Fig. 2 を高橋劭著「雷の科学」に転載.
- 5) スウェーデン水文・気象研究所の Markku Rummukainen 教授から, 高藪出: 3. 地域気候モデルシステムによる日本周辺での降水の様相の将来の変化予測, 天気, 54, 617-621 の第2図を Climate Change に転載.

・後援名義等使用依頼受付

名称: 可視化情報学会全国講演会 (米沢 2009)

- 1) 主催: 社団法人可視化情報学会
- 2) 期日: 2009年10月24日(土)~25日(日)
- 3) 場所: 山形大学工学部講義棟 (米沢キャンパス) (山形県米沢市)
- 4) 名義: 後援
- 5) 共催: 山形大学, 米沢工業会

名称: 第14回「震災対策技術展」横浜

- 1) 主催: 「震災対策技術展」横浜実行委員会
- 2) 期日: 2010年2月4日(木)~5日(金)
- 3) 場所: 横浜国際平和会議場 (パシフィコ横浜) (神奈川県横浜市)
- 4) 名義: 後援

名称: 第131回生存圏シンポジウム「International Symposium on Radar and Modeling Studies of the Atmosphere」

- 1) 主催: 京都大学生存圏研究所, 防災研究所
- 2) 期日: 2009年11月10日(火)~13日(金)
- 3) 場所: 京都大学宇治キャンパス、木質ホール (京都府宇治市)
- 4) 名義: 後援

- ・科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) における経理状況等の実地検査が 10月14日に行われた. 検査結果は概ね良好であった.

会計…2009年9月分の収支及び現預金検査報告

天気…Vol.56 No.10 (2009年10月号) の掲載記事と, Vol.56 No.11 (2009年11月号) 予

定記事の報告.

気象集誌…電子投稿システムについて最終調整段階であることが報告された.

SOLA…現在処理中の論文の報告.

講演企画…2010 年度地球惑星科学連合大会のセッションの共催申請を全会一致で承認した.

- ・2010 年度の気象学会春季大会と地球惑星科学連合大会の日程が重なる。なるべく会員の不都合にならないよう主催および共催セッションの開催日についての希望を申し入れてもらうこととした

総合計画…評議員会での意見への対応について、検討した。また、評議員の任期について検討した。今後、常任理事会及び理事会において検討を行い、具体的な対処方針等を策定する。

教育と普及…10月5日に開催されたサイエンスカフェが盛況であったことが報告された.

国際学术交流…日中韓気象学会共催国際会議におけるプロトコルについて検討した.

電子情報…2009年9月の気象学会ホームページのアクセス状況(88,489件)について報告.

引き続きアクセス数が昨年と比べて少ない.

- ・公募情報掲載数9件,うち海外2件.

気象研究コンソーシアム…運営委員会で新たに2件の新規課題を承認したことが報告された.

気象災害…メソ気象研究会と共催で行う一般向け講演会のプログラムが報告された.

6. その他

1) 2009年度春季大会の決算報告.

平成21年10月20日

社団法人日本気象学会

議長 新野 宏

署名人 藤谷徳之助

署名人 石田 純一